

荒川区区政改革懇談会

第4回 地域活性化・暮らしの安全分科会 議事要旨

【日 時】

11月15日(水) 19:00~21:00

【場 所】

荒川区役所 議員待遇者室

【次 第】

ステップ1：はじめに

ステップ3：次回の検討に向けた話し合い

ステップ2：「防災・コミュニティに関する
提言」中間報告についての意見
交換

ステップ1 はじめに

コンサルタントより、前回までの話し合いの確認を行った。また、今回の話し合いの説明を行った。

ステップ2 「防災・コミュニティに関する提言」中間報告についての意見交換

事務局より、「防災・コミュニティに関する提言」(案)中間報告の説明を行った。また、委員から提出された意見シートに関して、委員から説明を行った。双方の文書を踏まえて、意見交換を行った。

中間報告についての意見交換

【自助・共助・公助について】

- ・ 自助・共助・公助の中の共助の定義があいまいなのではないか。自助の延長で共助になるのか、行政とのからみで共助になるのか、はっきりさせた方が良い。
- ・ P12に荒川区は4千人のリストがあると記載してあるが、このリスト以外の高齢者や障がい者は日頃からコミュニティに参加して、町会や近所の人と顔見知りになっていることが大切である。
- ・ 共助の性格付けをはっきりさせてほしい。行政と町会、防災区民組織等との間のやり方やルールをきちっと決めてほしい。
- ・ 提言という部分では弱いのではないか。要望だけではなく、プロセス等の具体的なフレームを示した方が良いのではないか。
- ・ 他都市では、行政職員と地域住民が互いにタスクフォースを作り、コミュニティが弱

い場所を強化するようなモデルケースがある。荒川区でもコミュニティ空白地域にモデル地域を設定してみてもどうか。

- ・ 共助についてのわかりやすい例を示してみたらどうか。
- ・ 共助は初めから形を決める事というより、もっと自発的で多様な動きだと思う。多様な形の中で良いものを選択すれば、地域の活性化になる。
- ・ 地域で助け合うのは理想だが、信頼関係がなければ助けあうことはできない。アメニティ（快適な生活、心地よさ）とコミュニティ（人間同士のつながり）がセキュリティ（安全）に繋がる。アメニティやコミュニティの大切さを提言に盛り込みたい。
- ・ 自助・共助・公助をそんなに堅苦しく考えなくても良いのではないかと。自助は自分や家族、共助はご近所、公助は行政の支援というような考えで良いと思う。
- ・ 災害時に飲料水等がなくなった場合、何時から何時までの段階が共助になるのか。公（行政）の支援が来るまでに、共（町会）がどう対処すべきなのか。
- ・ 自助・共助・公助はフローチャート式で時系列のようにきっちり考えるものではない。お互いの助け合いが大切だと思う。
- ・ 荒川区は1日18万食分しか非常食を用意していないと聞いた。
（回答） 行政は3日分の食事を備蓄している。荒川区は3日の内1日分3食の食事を備蓄している。残り2日分は東京都で備蓄している。備蓄は町会の入会の有無に関係なく提供する。災害時の提供の仕方については検討が必要である。
- ・ 区と町会との「委任契約」という言葉が出てくると「遵守」と「違反」という言葉がでてくる。もっと地域の住民パワーを啓蒙することが大切なのではないか。

【交流の機会と場づくり】

- ・ アメニティの面では人々の交流が軸となるので、お祭り等の機会づくりの強化が必要である。
- ・ 地域づくりのためのまちづくり図書館をつくり、地域のコミュニティやサークルの人々が集い、地域の運営について話し合う場となれば良いのではないかと。また、ひろば館ももっと拡大してみたらどうか。
（回答） 色々な世代が交流を行っている「ふれあい館」は荒川区に5館ある。貸室、体育室、児童館等として利用して頂いている。
- ・ 使われていない児童公園を井戸端会議ができるようなコミュニティスペースとして改修してみてもどうか。
- ・ 防災訓練等はなかなか人を集めることは難しいが、地域住民に参加してもらえなくても、続けることにより目を留めてもらうことが大切である。
- ・ 町会には入りづらい新しいマンションの住民でも防火訓練や交通安全訓練等に参加することで、交流が生まれる。
- ・ ひろば館等の施設を建築する時に地域の住民の意見を聞いているのか。
（回答） 町会や地域住民の意見や考え方をお聞きするようにしている。

提言の充実に向けた意見交換

【基本的な考え方】

- ・ グループとしての方向性をある程度提言に盛り込んだ方が良い。
- ・ 軸となるような言葉、考え方を入れるとともに、実地での施策やアクションへとつながるような重点的な対応策が提案できると良い。
- ・ 防災は自助・共助・公助の同心円だと思う。自助・共助 + 公助になるのではないか。
- ・ 自助・共助・公助の図の方向性について、この方向で良いのか。円が重なりあうような形で示しても良いのではないか。
- ・ 自助・共助・公助とアメニティ・コミュニティ・セキュリティは、ある程度重なり合う表現ができるのではないか。

【コミュニティや人材育成】

- ・ 災害や地域マネジメント、コミュニティのリーダー養成事業を強調してみたらどうか。
- ・ コミュニティ空白地帯に新たなコミュニティをつくる。また、まちづくりに関する専門的な教育をして、リーダーになりうる人材を育成する。町会に限らず、消防団やNPOに参加している人でも良いと思う。
- ・ 町会やコミュニティのマネジメントはそんなに難しいことではない。やる気があればできると思う。
- ・ 共助という面で、町会の自主防災組織や住民側の防災意識を育てていかなければならないと思う。
- ・ 行政の戦略としてコミュニティビジネスを考えてみてはどうか。
- ・ サラリーマンや学生をどう地域に取り込んでいくかの対策が必要である。
- ・ 多種多様なコミュニティがあるが、コミュニティの結びつきを支援するということを強調してみたらどうか。
- ・ 区と防災区民組織の協定は必ず入れてほしい。

ステップ 3 次回の検討に向けた話し合い

12月8日迄に、柱となる意見や考え方とともに、「提言の実現に向けて」に盛り込む内容を含め、アクションにつながるような具体的な対応策を事務局に各自提出して、提言書としてまとめることにした。また、産業・観光についても話し合いをしたいという意見も出されたが、残り回数も少なく、来年度の懇談会でも取り上げられる議題なので、防災・コミュニティに絞って、具体的な話し合いを続けることにした。

【次回日程】

1月17日(水) 19:00~

以上